

事業名

仙北市地域防災連続講座 「みんなで取り組む地域の防災」

実施センター 秋田県南部男女共同参画センター

施設名 南部ハーモニープラザ(秋田県南部男女共同参画センター)

秋田県横手市神明町1-9

Tel. 0182-33-7018 Fax. 0182-33-7038

E-mail. sagec-7002@abelia.ocn.ne.jp

URL <http://www.akita-kenmin.jp/nanbugender/>

指定管理者 特定非営利活動法人 秋田県南NPOセンター

センターについて

秋田県南部男女共同参画センターは、男女共同参画社会の実現に向けた事業を展開している拠点施設。平成14年に設立され10年が経過。学習・研修事業では、「男女共同参画社会づくり基礎講座」と、男女共同参画の推進的役割を担う人材養成を目的とした「地域サポーター養成講座」、また、地域で活躍している各種団体支援を目的とした「コミュニケーショントレーニング講座」、女性の起業支援・再就職支援を目的に、各分野で活躍している方々を招いてキャリアアップに役立つ実践的なセミナー「女性チャレンジセミナー」を開催する等、市町村と連携をはかり、出前方式で実施。公設民営方式により平成18年4月から、特定非営利活動法人秋田県南NPOセンターが県指定管理者として管理運営している。

事業内容の紹介

地域の災害を想定し、弱者となりがちな女性・子ども・高齢者への対策について、男女共同参画の視点で課題を抽出しながら実践的な取組を行い、防災面での実践力向上を図る。秋田県南地区の市町村に周知・募集し、住民、活動団体等から事業対象団体を選定。男女共同参画の視点からの地域防災・避難生活や復興に向けた取り組みをテーマとして、ワークショップ・講座・実践活動等を連続して5回開催した。

実施までの経緯

近年、日本国内において異常気象等による自然災害が多発する中、平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、秋田県仙北市においては、人命が奪われることはなかったものの、停電や断水など、通常生活に欠かせないライフラインが寸断され、市民生活に大きな影響を受けた。また、それより以前、平成22年7月末には、局地的な集中豪雨における洪水災害なども発生し、田畑への浸水をはじめ、道路の冠水、住宅の床上・床下浸水など、仙北市全域にわたり大きな被害を受けた。

このような中、仙北市長は各地域審議会（H22・23年度）に対し、「地域防災のあり方」について諮問し、各地域審議会からは地域と行政が一体となった地域防災のあり方について答申していただいた。その中では、高齢者をはじめ、障がい者など弱者となりがちな方々への対策、また、情報伝達の対

策、そして、自主防災組織の対策などが答申されている。特に、日頃からの防災意識を高め、救命方法などの訓練を積むこと、これらの取り組みについて、行政は住民に対し、平時から積極的に行っていたくよう要望されている。

対策を模索する中、秋田県の「地域で防災チェック&アクション」事業を知るところとなり、仙北市地域運営体(町内会、集落会、婦人会、老人クラブなど地域の団体に組織しているもの)、消防団員を選定し、当事業を活用・実施となった。

学習プログラムの概要

第1回 6/16(土) 13:30~15:00	講演:「男女共同参画と地域で進める結果防災のまちづくり」 会場:西木温泉ふれあいプラザ「クリオン」
第2回 7/9(月) 13:30~15:00	講演:「東日本大震災『気仙沼からの報告』」 会場:西木温泉ふれあいプラザ「クリオン」
第3回 7/14(土) 13:30~15:30	口演:落語で考える男女共同参画。 「なんとか・アクション」は男女差別!? 創作落語『ぼじていぶ・あくしょん』を聴く 会場:角館広域交流センター
第4回 7/21(土) 13:30~15:30	体験:「避難所ゲーム『HUG』」を使用して避難所運営を擬似体験しよう 会場:角館広域交流センター
第5回 7/28(土) 13:30~15:30	講演:「女性が参加する地域防災」 体験:「市民による応急手当」心肺蘇生法を学ぶ 会場:角館広域交流センター



第2回講演。東日本大震災の気仙沼でのボランティア活動が報告された。



第3回落語口演。男女共同参画について学ぶ。意外な切り口が好評だった。



第4回では避難所ゲームを使って、避難所の運営を疑似体験。様々な意見交換ができた。



第5回では、人形を使って心肺蘇生法を学び、真剣に取り組む様子が見られた。

学習プログラムの具体的構成

【第1回】

時間	学習内容	ねらい
13:30	あいさつ(仙北市長)	
13:35	講演：「男女共同参画と地域で進める結果防災のまちづくり」 講師：渡辺 千明(秋田県立大学 木材高度加工研究所 准教授)	「男女共同参画と防災」の基本計画の現状を知る。 「防災の基本」「秋田市・能代市での取り組み紹介」を学び地域の防災活動につなげるヒントを得る。
14:40	質疑応答と参加者の感想	
14:50	アンケート記入	
15:00	終了	

【第2回】

時間	学習内容	ねらい
13:30	あいさつ(仙北市副市長)	
13:35	講演：「東日本大震災『気仙沼からの報告』」 講師：船山 仁(NPO法人 秋田パドラーズ 理事長)	災害発生時の状況や避難所の状態、被災地の現状を、ボランティアを通して体験した方の話を聞くことで、自分達の出来ることや、すべきことが何かを考え、防災へのヒントを得る。
14:40	質疑応答と参加者の感想	
14:50	アンケート記入	
15:00	終了	

【第3回】

時間	学習内容	ねらい
13:30	開会あいさつ	
13:35	口演：落語で考える男女共同参画。 「なんとか・アクション」は男女差別!? 創作落語『ぼじていぶ・あくしょん』(前編) 25分 講師：千金亭値千金/せんきんていあたいせんきん 本名：阪本 真一(埼玉県鶴ヶ島市職員)	1・2回の講演から、災害時に女性の視点を取り入れることの必要性を学んだことから、男女共同参画について考え、学ぶ。
14:00	自治会で何が起こったか(解説) 5分	創作落語の内容解説
14:05	グループ・トーク 15分 問い…男女差別(性別によって人の扱い(地位・役割)に差をつける)ではないか?	グループ・トークを通じて男女平等・差別について考える。
14:20	グループ代表による発表 15分	
14:35	休憩 5分	
14:40	創作落語『ぼじていぶ・あくしょん』(後編) 20分 (後編) 聴講後、落語の台本配布。	
15:00	グループ・ワーク 10分 問い…男女共同参画=人-□+チャンス (□に入る言葉は何?)	グループ・ワークを通じて男女共同参画とポジティブ・アクションについて考える。
15:10	男女共同参画とポジティブ・アクション (解説) 15分	男女共同参画とポジティブ・アクションについて学び、考えを深める。
15:25	まとめ・アンケート記入	
15:00	終了	

【第4回】

時間	学習内容	ねらい
13:30	開会あいさつ テーマ「避難所ゲーム『HUG』を使用して避難所運営を 疑似体験しよう」 講師：秋田県南部男女共同参画センター職員 ゲームの紹介 20分	自分達が被災し、避難所への避難と運営が必要になった場合を想定し、様々な出来事への対応を疑似体験する。
13:50	簡単自己紹介 10分 アイスブレキングシート使用	初対面で緊張している参加者の心をほぐす。
14:00	ゲーム 60分 作戦会議と練習 10分 ゲーム開始…避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図に配置。	ゲームを通して災害時要援護者への配慮をしながら避難の部屋割りや生活空間の確保等々、意見を出し合い、話し合いながら避難所の運営を学ぶ。
15:00	感想、意見交換 30分 ※グループ代表による発表	他のグループの感想や意見を聞き、比較検討や参考にする。
15:25	仙北市災害備蓄品の一部展示の説明。	

企画時や実施時に工夫したこと

- 本講座の企画・実施に協力を受けた仙北市役所と連携し、消防団に所属している女性消防団員に、行政の方に呼びかけを依頼し、参加につなげた。

参加者の声

- 地域の防災リーダーとして地域住民の防災意識を高める活動をしたい。(女性消防団員)
- 毎日災害のことを考えることは難しいが、結果的に防災に繋がる暮らしを送れるよう自分の生活を見直していきたい。
- 防災対策または災害時は、特に女性の力、女性の視点が必要だと思った。
- “ポジティブ・アクション”“男女共同参画”の大切さを痛感した。
- 難しく感じていた“男女共同参画”が落語を通じて鮮明になったことに感謝している。
- いざという時のために、普段から知識を得たり体験したりすることが、大切だ。
- 女性を守るために、女性の意識改革が必要。

今後の実施に向けた課題

- 受講者を増やすための日時の検討。仕事休みを見込んで週末の実施としたが、平日就業後の夜間はどうかとの参加者からの提案もあり、今後の課題として検討していきたい。
- アンケートの分析により気付いたこととして、一般住民の防災に対する危機感や意識の低下があった。第4回の避難所運営の擬似体験講座において「避難所の運営は役場や自治会の人やるもので自分達ではないのではないか」という意見が少なくなかった。東日本大震災を経験はしたものの、被災の程度の違いや、時間の経過による風化、また地域の災害想定状況(山や海、河川から遠い等)が原因と思われる。“自分達の地域はきっと大丈夫”という希望的安心感が根強い。いざという時にこそ普段使っているものしか使えず、していることしか出来ないということ、つまり日頃からの取り組みが自分の身を守ることに繋がることを、講座を通して学び再認識したが、この意識を維持するべく働きかけていくことも、男女共同参画センターとしての課題と思う。